

科目名 (英)	英会話	必修 選択	必修・選択 必修・選択 等	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 月曜日 1限
教員の略歴	東北大学で経営修士号を取得する傍ら、長年英語教育に従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥づかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	演習	L1 挨拶が出来るようになる アセスメントテスト		オンラインプラクティス L 1
2	/	演習	L2 L3 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る		オンラインプラクティス L2 L3
3	/	演習	L6 好き嫌いを表現出来るようになる 相手に質問で返すことが出来るようになる		オンラインプラクティス L6
4	/	演習	L8 相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることが出来るようになる 誤りに返答することが出来るようになる		オンラインプラクティス L8
5	/	演習	L9 L10 相手の家族について質問出来るようになる 自身の家族について説明出来るようになる 相手の性格と比較して説明出来るようになる		オンラインプラクティス L9 L10
6	/	演習	L11 相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に返答出来るようになる		オンラインプラクティス L11
7	/	演習	L7 L13 時間を尋ねることが出来るようになる 時間を伝えることが出来るようになる 相手の日曜について質問出来るようになる		オンラインプラクティス L7 L13
8	/	演習	L14 継続して質問することが出来るようになる		オンラインプラクティス L14
9	/	演習	L19 L20 ある場所の位置について質問出来るようになる ある場所の位置を説明出来るようになる 道案内が出来る。道順を尋ねることが出来るようになる		オンラインプラクティス L19 L20
10	/	演習	L23 ある行動の頻度について尋ねることが出来るようになる ある行動の頻度を説明出来るようになる		オンラインプラクティス L23
11	/	演習	L28 ある食べ物について質問出来るようになる ある食べ物を説明出来るようになる		オンラインプラクティス L28
12	/	演習	L29 L30 過去の出来事について話すことが出来るようになる 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる		オンラインプラクティス L29 L30
13	/	演習	L32 予定について質問出来るようになる 予定について説明出来るようになる		オンラインプラクティス L32
14	/	試験	定期試験 アセスメントテスト		試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	演習	振り返り		試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>					
Speak Now 1					

科目名 (英)	英会話 ()	必修 選択	<input checked="" type="radio"/> 必修 <input type="radio"/> 選択 必修・選択 等	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	<input type="radio"/> 講義 <input checked="" type="radio"/> 演習 <input type="radio"/> 実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 集中
教員の略歴	東北大学で経営修士号を取得する傍ら、長年英語教育に従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実演100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	海外の税関で相手の話すことがわかる受け答えできる	予習・復習する
2	/	演習	動物たちの英名がわかる	予習・復習する
3	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
4	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
5	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
6	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
7	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
8	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
9	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
10	/	演習	海外の動物施設員のレクチャーが少し理解できる	予習・復習する
11	/	演習	ホストファミリーとコミュニケーションをとることができる	予習・復習する
12	/	演習	ホストファミリーとコミュニケーションをとることができる	予習・復習する
13	/	演習	海外で食事の注文ができる	予習・復習する
14	/	演習	海外で買い物ができる	予習・復習する
15	/	試験	試験	予習・復習する
準備学習 時間外学習		オーストラリア・アフリカの国、動物業界について予習・復習を行うこと。		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
No worries				

科目名 (英)	IT	必修 選択	必修・選択必修・選択 等	年次	1	担当教員	阿部ゆざみ
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 火曜日 3限
教員の略歴	Word・Excel・PowerPointの操作方法を専門学校・PCスクール・企業研修・就職支援などで指導						
授業の学習内容	現代では業種・職種を問わず社会生活に必須となっているパソコンのスキルが求められています。シェアが90%を超えているWindows系のOfficeを実技を中心として学び、職場での活用技術を身に着ける。 業務の報告書の作成、データ集計・集計結果の分析などに必要なパソコンスキルを学ぶ。						
到達目標	Word・Excel・PowerPointの基本操作、効率の良い使用方法、また、実務例に基づいたレポート・資料などの作成ができる						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	/	講義	IT・リテラシーを理解する		
2	/	演習	効率のよい入力方法を覚える	準備学習	
3	/	演習	Wordの基本編集機能を操作できる	Windowsの基本操作(日本語入力・マウス操作・キーボード操作)やファイル・	
4	/	演習	ビジネス文書の基本ルールを覚える	フォルダーの扱い(作成・移動・コピーなど)ができる方が望ましい	
5	/	演習	表を作成・編集できる	学習課題	
6	/	演習	グラフィックスを挿入できる	積み重ね授業になるので、授業終了後は復習をし、確実に次の時間に活かせることが望ましい	
7	/	演習	印刷の設定ができる		
8	/	演習	四則演算ができる		
9	/	演習	簡単な関数や、参照方法ができる		
10	/	演習	表を編集し、印刷設定ができる		
11	/	演習	円グラフ・棒グラフを作成できる		
12	/	演習	複合グラフを作成できる		
13	/	演習	シートの操作やシート間の計算ができる		
14	/	試験	試験		
15	/	演習	試験解説		
準備学習 時間外学習			パソコン操作に慣れるためにも時間外にも課題などパソコンを使用して作成してほしい		
【使用教科書・教材・参考書】 □					
「Word2010・Excel2010 株式会社滋慶出版」「滋慶学園グループ IT・リテラシー」					

科目名 (英)	エコロジー概論・関連法規 (Introduction to eEcology・Related Laws and Regulation)	必修 選択	必修・選択 必修・選択 等	年次	1	担当教員	高山 清次
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長						
授業の学習内容	世界の環境問題 生物の減少 森林の減少 海洋汚染 地球温暖化 暮らしとエネルギー 生活とゴミ 食生活 動物園と水族館の環境 動物病院とペットショップ 牧場と山里						
到達目標	日常的に自然と環境に対して配慮できるようにする						
評価方法と基準	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	世界の環境問題に関して理解できる 野生生物の減少について理解できる	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	森林の減少 熱帯林の減少について理解できる 地球温暖化の原因について理解できる	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	海洋汚染 大切な海について 青い星がにぎり始めた原因を理解できる	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	暮らしとエネルギー・食生活・ 生活とゴミについて理解できる	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	動物園と水族館の環境ズーストック計画 牧場・山里の環境について理解できる	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	すべては自分とつながっており、環境問題は他人 事ではないことを理解できる	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
8	/	講義	法について学ぶ意義を知る	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	家畜衛生法関連・感染症法・ 狂犬病予防について理解する。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	愛護と管理の法について理解する。①	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	愛護と管理の法について理解する。②	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	外来法について理解する。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	鳥獣保護法について理解する。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習		学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「次世代のための環境教育 株式会社滋慶出版」				

科目名 (英)	アニマルヒストリー (History of Animals and Human)		必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	高山清次
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義 演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 月曜日 3限
教員の略歴	1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長							
授業の学習内容	＜アニマルヒストリー＞動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。							
到達目標	＜アニマルヒストリー＞この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。							
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒・滅菌を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	ゾノーシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムを説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
8	/	講義	動物の進化とゲノムDNAの進化を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる基としての倫理を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	ペットビジネスの種類を説明できる。環境を守る観察と観光について知識を深める。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	動物介在療法(AAT)と動物介在活動(AAA)、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスを説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	牧羊犬、警察犬、救助犬身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	BSE問題、鳥インフルエンザ、日本の食料自給率、動物愛護問題を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「ECO業界で役立つ基礎生物 株式会社滋慶出版」「動物年表で知るアニマルヒストリー 株式会社滋慶出版」				

科目名 (英)	アニマルヒストリー (History of Animals and Human)		必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	高山清次
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義 演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	曜日・時限 後期
教員の略歴	1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長							
授業の学習内容	<アニマルヒストリー>動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。							
到達目標	<アニマルヒストリー>この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。							
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	CAPPを理解する	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	CAPPを理解する	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	AAAを理解する	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	AAAを理解する	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	AATを理解する	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	AATを理解する	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	AAEを理解する	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
8	/	講義	AAEを理解する	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	AAEを理解する	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	HABを理解する	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	HABを理解する	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	HABを理解する	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	HABを理解する	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
「ECO業界で役立つ基礎生物 株式会社滋慶出版」「動物年表で知るアニマルヒストリー 株式会社滋慶出版」				

科目名 (英)	アニマルヘルスケア I (Animal Herthcare I)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	長嶺 幸介
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 水曜日
教員の略歴	1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務						
授業の学習内容	エキゾチックアニマル、鳥類、両生類、爬虫類の生態や管理などについて理解し、適切な管理ができる。						
到達目標	健康的な飼育管理ができる。						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	①草食齧歯類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	②草食齧歯類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	③草食齧歯類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	④草食齧歯類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	⑤草食齧歯類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	①食虫目について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	講義	②食虫目について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
8	/	講義	①雑食齧歯類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	②雑食齧歯類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	③雑食齧歯類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	①食肉目について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	②食肉目について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	③食肉目について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。「イラストでみる 動物の飼養管理 株式会社滋慶出版」				

科目名 (英)	アニマルヘルスケアⅡ (Animal HerthcareⅡ)		必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	長嶺 幸介
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
教員の略歴	1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務							
授業の学習内容	エキゾチックアニマル、鳥類、両生類、爬虫類の生態や管理などについて理解し、適切な管理ができる。							
到達目標	健康的な飼育管理ができる。							
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	①鳥類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	②鳥類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	③鳥類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	④鳥類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	⑤鳥類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	①爬虫類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	講義	②爬虫類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
8	/	講義	③爬虫類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	④爬虫類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	①両生類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	②両生類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	③両生類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	④両生類について理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。「イラストでみる 動物の飼養管理 株式会社滋慶出版」				

科目名 (英)	基礎獣医学(解剖・病理)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	長嶺 幸介
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義 演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 水曜日 3限
教員の略歴	1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務						
授業の学習内容	動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する						
到達目標	この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことが出来るようになる						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	外皮系、皮膚、被毛、爪を理解する	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	口腔、歯を理解する	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	口腔、歯、消化器系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	咽頭、食道を理解する	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	胃を理解する	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	小腸、大腸を理解する	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	肝臓、胆嚢 I を理解する	講義範囲を予習・復習する。
8	/	講義	肝臓、胆嚢 I 胆嚢 II を理解する	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	脾臓を理解する	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	腎臓 I を理解する	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	腎臓 II を理解する	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	尿管、膀胱、尿道を理解する	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	鼻腔、咽頭、喉頭を理解する	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	気管、気管支を理解する	講義範囲を予習・復習する。
15	/	講義	試験、振り返り	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「動物の体のしくみ 株式会社滋慶出版」「動物のからだの構造と機能 ファームプレス」				

科目名 (英)	基礎獣医学(解剖・病理)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	長嶺 幸介
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義 演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
教員の略歴	1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務						
授業の学習内容	動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する						
到達目標	この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことができるようにする						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	生殖器系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	①内分泌系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	②内分泌系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	①循環器系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	②循環器系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	感覚器系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	①神経系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
8	/	講義	②神経系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	①筋系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	②筋系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	①骨格系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	②骨格系を理解する	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	細胞を理解する	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	試験	試験範囲を勉強する。
15	/	講義	振り返り	試験後、見直す。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「動物の体のしくみ 株式会社滋慶出版」「動物のからだの構造と機能 ファームプレス」				

科目名 (英)	公衆衛生 (Public Morality Health)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	高山清次
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜日 2限
教員の略歴	1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長						
授業の学習内容	疾病や健康増進のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はもちろんのこと、日常生活においても、この知識を役立てる。						
到達目標	この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、公衆衛生の知識を持って、行動できることを目標とする。						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	公衆衛生の概要を把握する。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	動物のよい飼育環境を理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	①環境衛生について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	②環境衛生について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	疾病の定義について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	防疫について、実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	講義	①消毒のしくみについて理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
8	/	講義	②消毒のしくみについて理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	①病原体について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	②病原体について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	ワクチンの仕組みについて述べるができる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	①ズーノーシスを理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	②ズーノーシスの予防を実践することができる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。				

科目名 (英)	フィールドワーク (海洋生態)	必修 選択	必修(選択必修・選択等)	年次	1	担当教員	岡村淳市
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期・通年・集中等
教員の略歴	民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者						
授業の学習内容	専門書、水産系教科書などを用いた講義。一部、標本資料や映像などを使用する。						
到達目標	水圏(海洋域・陸水域)に広く分布する魚類以外の水生生物や植物の形態学、系統分類学、生態学を総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。						
評価方法と基準	記述試験60% 授業内評価40% (授業内容の理解度、解説・文章力を評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	分類の基礎① 種名・学名・和名	ノートを確認する
2	/	講義	分類の基礎② 命名規約・系統樹	ノートを確認する
3	/	講義	原生生物・海綿動物の分類・生態	ノートを確認する
4	/	講義	刺胞動物の分類・生態①	ノートを確認する
5	/	講義	刺胞動物の分類・生態②	ノートを確認する
6	/	講義	有櫛動物などの分類・生態	ノートを確認する
7	/	講義	軟体動物の分類・生態	ノートを確認する
8	/	講義	環形動物の分類・生態	ノートを確認する
9	/	講義	棘皮動物の分類・生態	ノートを確認する
10	/	講義	節足動物の分類・生態①	ノートを確認する
11	/	講義	節足動物の分類・生態②	ノートを確認する
12	/	講義	脊索動物の分類・生態	ノートを確認する
13	/	講義	まとめ	
14	/		記述テスト	
15	/	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	フィールドワーク (海洋生態)	必修 選択	必修(選択必修・選択等)	年次	1	担当教員	岡村淳市
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期・通年・集中等
教員の略歴	民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者						
授業の学習内容	専門書、水産系教科書などを用いた講義。一部、標本資料や映像などを使用する。						
到達目標	水圏(海洋域・陸水域)に広く分布する魚類以外の水生生物や植物の形態学、系統分類学、生態学を総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。						
評価方法と基準	記述試験60% 授業内評価40% (授業内容の理解度、解説・文章力を評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	海洋の成立 海事世界史	ノートを確認する
2	/	講義	海洋の構成要素① 海流と漂着生物	ノートを確認する
3	/	講義	海洋の構成要素② 潮汐と地域的特徴	ノートを確認する
4	/	講義	海洋の構成要素③ 海中の光	ノートを確認する
5	/	講義	海洋の構成要素④ 栄養塩の影響	ノートを確認する
6	/	講義	海洋の構成要素⑤ 水温変化の特性	ノートを確認する
7	/	講義	海洋の構成要素⑥ 塩分濃度の仕組み	ノートを確認する
8	/	講義	海洋の生態系① 主な海棲プランクトン	ノートを確認する
9	/	講義	海洋の生態系②水生生物を生活様式で分類する	ノートを確認する
10	/	講義	さまざまな陸水環境① 河川域	ノートを確認する
11	/	講義	さまざまな陸水環境② 湖沼域	ノートを確認する
12	/	講義	さまざまな陸水環境③ 河口域	ノートを確認する
13	/	講義	まとめ	
14	/		記述テスト	
15	/	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	海洋・水生生物学 (水生無脊椎動物研究)	必修 選択	必修(選択必修・選択等)	年次	1	担当教員	岡村淳市
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期・後期・通 年・集中等
教員の略歴	民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者						
授業の学習内容	専門書、水産系教科書などを用いた講義。一部、標本資料や映像などを使用する。						
到達目標	水圏(海洋域・陸水域)に広く分布する魚類以外の水生生物や植物の形態学、系統分類学、生態学を総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。						
評価方法と基準	記述試験60% 授業内評価40% (授業内容の理解度、解説・文章力を評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	分類の基礎① 種名・学名・和名	ノートを確認する
2	/	講義	分類の基礎② 命名規約・系統樹	ノートを確認する
3	/	講義	原生生物・海綿動物の分類・生態	ノートを確認する
4	/	講義	刺胞動物の分類・生態①	ノートを確認する
5	/	講義	刺胞動物の分類・生態②	ノートを確認する
6	/	講義	有櫛動物などの分類・生態	ノートを確認する
7	/	講義	軟体動物の分類・生態	ノートを確認する
8	/	講義	環形動物の分類・生態	ノートを確認する
9	/	講義	棘皮動物の分類・生態	ノートを確認する
10	/	講義	節足動物の分類・生態①	ノートを確認する
11	/	講義	節足動物の分類・生態②	ノートを確認する
12	/	講義	脊索動物の分類・生態	ノートを確認する
13	/	講義	まとめ	
14	/		記述テスト	
15	/	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	海洋・水生生物学 (海洋哺乳類)	必修 選択	必修(選択必修・選択等)	年次	1	担当教員	藤田智子
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期・通年・集中等
教員の略歴	畜産学科卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社						
授業の学習内容	海生哺乳類の生理、生態について学ぶ						
到達目標	陸上哺乳類との違いなど、理解できる						
評価方法と基準	定期試験 50% 出席率 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ガイダンス・海牛を理解する	ノートを確認する
2	/	講義	海牛を理解する	ノートを確認する
3	/	講義	海牛を理解する	ノートを確認する
4	/	講義	海牛を理解する	ノートを確認する
5	/	講義	海牛を理解する	ノートを確認する
6	/	講義	海牛を理解する	ノートを確認する
7	/	講義	鯨類を理解する	ノートを確認する
8	/	講義	鯨類を理解する	ノートを確認する
9	/	講義	鯨類を理解する	ノートを確認する
10	/	講義	鯨類を理解する	ノートを確認する
11	/	講義	鯨類を理解する	ノートを確認する
12	/	講義	鯨類を理解する	ノートを確認する
13	/	講義	まとめ	
14	/		試験	
15	/	講義	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	スイムトレーニング (Swimming Training)	必修 選択	必修 (選択必修・選択等)	年次	1	担当教員	小野寺 紘也
学科・コース	海洋・ECO学科屋間 I 部	授業 形態	講義 (演習・実習等)	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 木曜日 2限
教員の略歴	2010年10月～2012年5月:タイにてダイビングインストラクター、2012年11月～2013年4月:フィリピンにてダイビングインストラクター2013年5月～現在:国内ダイビングショップにてダイビングインストラクター現在に至る 資格:潜水士、PADI、INSTRUCTOR CPR/AED/FirstAid-Infant						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳は4泳法を最低25m泳げるようにする。 ・潜水士は全員が国家資格を取得できるようにする。 ・ダイビングは初級ライセンスの取得からステップアップまで 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・泳げるようになること。 ・潜水士資格が取れるようにする ・ダイビングは初級ライセンスの取得 						
評価方法と基準	水泳は前期、後期でテストを行い、点数をつけてランクで評価。 潜水士、ダイビングは資格の取得を目指して取り込む。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	演習	水泳の基礎を理解する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
2	5月16日	演習	クロールの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
3	5月23日	演習	平泳ぎの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
4	5月30日	演習	クロールの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
5	6月13日	演習	ダイビングプール	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
6	6月20日	演習	ダイビングプール	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
7	6月27日	演習	平泳ぎの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
8	7月4日	演習	クロールの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
9	7月11日	演習	テスト、クロール、平泳ぎ	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
10	8月15日	演習	背泳ぎの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
11	8月22日	演習	バタフライの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
12	8月29日	演習	背泳ぎの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
13	9月5日	演習	バタフライの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
14	9月26日	演習	背泳ぎの泳法を習得する	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
15	10月3日	演習	テスト、背泳ぎ、バタフライ	試験範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	スイムトレーニング (Swimming Training)	必修 選択	必修(選択必修・選択等)	年次	1	担当教員	小野寺 紘也
	学科・コース	海洋・ECO学科昼間 I 部	授業 形態	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期 木曜日 2限
教員の略歴	2010年10月～2012年5月:タイにてダイビングインストラクター、2012年11月～2013年4月:フィリピンにてダイビングインストラクター2013年5月～現在:国内ダイビングショップにてダイビングインストラクター現在に至る 資格:潜水士、PADI、INSTRUCTOR CPR/AED/FirstAid-Infant						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 水泳は4泳法を最低25m泳げるようにする。 潜水士は全員が国家資格を取得できるようにする。 ダイビングは初級ライセンスの取得からステップアップまで 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 泳げるようになること。 潜水士資格が取れるようにする ダイビングは初級ライセンスの取得 						
評価方法と基準	水泳は前期、後期でテストを行い、点数をつけてランクで評価。 潜水士、ダイビングは資格の取得を目指して取り込む。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	演習	水泳の基礎をさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
2	5月16日	演習	クロールをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
3	5月23日	演習	平泳ぎをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
4	5月30日	演習	クロールをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
5	6月13日	演習	ダイビングプールをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
6	6月20日	演習	ダイビングプールをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
7	6月27日	演習	平泳ぎをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
8	7月4日	演習	クロールをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
9	7月11日	演習	テスト、クロール、平泳ぎをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
10	8月15日	演習	背泳ぎをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
11	8月22日	演習	バタフライをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
12	8月29日	演習	背泳ぎをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
13	9月5日	演習	バタフライをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
14	9月26日	演習	背泳ぎをさらに高める	演習範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
15	10月3日	演習	バタフライをさらに高める	試験範囲を予習・復習(イメージトレーニング)する。
16	10月10日	演習	テスト、背泳ぎ、バタフライ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	動物園研究 ()	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	阿部敏計
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義) 演習・実 習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 月曜日 3限
教員の略歴	東北大学農学部畜産学科修士課程修了後、仙台市八木山動物公園勤務、2017年3月に副園長で退職						
授業の学習内 容	動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。						
到達目標	動物飼育技術者の育成						
評価方法と基準	筆記試験80%、授業内評価20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	自己紹介、授業の進め方	
2		講義	(動物園の概要)を理解する	飼育ハンドブック3
3		講義	DVD(野生保護に生きる人々)を理解する	感想文提出
4		講義	動物園・水族館の目的を理解する	飼育ハンドブック3
5		講義	仙台市立八木山動物園の仕事を理解する	レポート提出
6		講義	仙台市立八木山動物園の仕事を理解する	レポート提出
7		講義	日動水の役目を理解する	飼育ハンドブック3
8		講義	国内法令、天然記念物を理解する	飼育ハンドブック3
9		講義	国際条約(ワシントン条約)を理解する	飼育ハンドブック3
10		講義	(分類)種とは、分類体系を理解する	飼育ハンドブック3
11		講義	(生理)感覚器官を理解する	飼育ハンドブック3
12		講義	繁殖を理解する	飼育ハンドブック3
13		講義	DVD(象 列車がやってきた)を理解する	感想文
14		試験	試験	
15		講義	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
飼育ハンドブック3				

科目名 (英)	動物園研究 ()	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	阿部敏計
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義) 演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 3限
教員の略歴	東北大学農学部畜産学科修士課程修了後、仙台市八木山動物公園勤務、2017年3月に副園長で退職						
授業の学習内容	動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。						
到達目標	動物飼育技術者の育成						
評価方法と基準	筆記試験80%、授業内評価20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	日本の動物園が辿った歴史を説明できる	授業範囲の予習と復習
2		講義	現代社会における動物園の役割を説明できる	授業範囲の予習と復習
3		講義	動物園に関わる法律について記述することができる	授業範囲の予習と復習
4		講義	動物の分類表記を記述することができる	授業範囲の予習と復習
5		講義	種と亜種の違いを説明できる	授業範囲の予習と復習
6		講義	動物園の展示の工夫を説明できる	授業範囲の予習と復習
7		講義	動物が感じるストレスの仕組みを説明できる	授業範囲の予習と復習
8		講義	動物のストレス軽減への取り組みを実践できる	授業範囲の予習と復習
9		講義	動物福祉の概念について説明できる	授業範囲の予習と復習
10		講義	動物福祉の概念について説明できる	授業範囲の予習と復習
11		講義	八木山動物園の動物管理を理解する	授業範囲の予習と復習
12		講義	八木山動物園の動物管理を理解する	授業範囲の予習と復習
13		講義	試験対策	授業範囲の予習と復習
14		試験	試験	今までの演習内容を行う
15		講義	振り返り、誤解答を説明できる	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
飼育ハンドブック3				

科目名 (英)	動物園研究 (水族館研究)		必修 選択	必修(選択必修・選択等)	年次	1	担当教員	藤田智子
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期・通年・集中等
教員の略歴	日本大学農獣医学部畜産学科卒業、鴨川シーワールドにて5年間勤務後、動物系専門学校で非常勤講師として勤務							
授業の学習内容	水族館の業務、責任を理解する							
到達目標	餌料 病気 繁殖 収集について理解できる							
評価方法と基準	試験 40%授業内評価 60%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ガイダンス 水族館を理解	テキスト参考
2	/	講義	水族館の歴史	テキスト参考
3	/	講義	いろいろな水族館	テキスト参考
4	/	講義	水族館の目的	テキスト参考
5	/	講義	飼育水の管理	テキスト参考
6	/	講義	採集と収集	テキスト参考
7	/	講義	海水の確保	テキスト参考
8	/	講義	飼育環境	テキスト参考
9	/	講義	餌料・栄養学	テキスト参考
10	/	講義	餌料・栄養学	テキスト参考
11	/	講義	餌料・栄養学	テキスト参考
12	/	講義	冷凍食品	テキスト参考
13	/	講義	まとめ	
14	/		テスト	
15	/	講義	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
飼育ハンドブック				

科目名 (英)	ショップ演習 ()	必修 選択	必修(選択必修) 選択等	年次	1	担当教員	大原 暁雄
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期・通年・ 集中等
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	業界への従事を目指す学生を対象とした、業界で働くための幅広い知識を修得する授業。 ・インセクトショップの仕事を学ぶ ・本授業で得た幅広い知識と経験を基に、ショップスタッフや問屋へ就職後も即戦力として活躍できる人材に育ててくれることを望む。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に従事する職場での即戦力となるため、業界に対する基本知識を学ぶ。 ・業界において、問屋業の幅広い基礎知識と技術を習得する。 ・小売業の一部の基礎知識と技術を習得する。 ・小売店での生体管理方法を身につける。 ・オリジナルの器材を作製することで、より深い知識を身につける。 						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	業界の仕組みを説明できる	講義範囲を予習・復習する。
2	/	演習	問屋の役割、存在意義を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
3	/	演習	問屋の業務を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
4	/	演習	問屋の生体管理の実践できる	講義範囲を予習・復習する。
5	/	演習	生体管理方法を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
6	/	演習	飼育室の生体管理方法を実践できる	講義範囲を予習・復習する。
7	/	演習	飼料の栄養素を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
8	/	演習	色揚げメカニズムを説明できる	講義範囲を予習・復習する。
9	/	演習	餌の原材料の特徴を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
10	/	演習	餌を調合して製造することが出来る	講義範囲を予習・復習する。
11	/	演習	輸入の仕組みを説明できる	講義範囲を予習・復習する。
12	/	演習	輸入の法律に関して説明できる	講義範囲を予習・復習する。
13	/	演習	前期で行ったことを説明できる	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	筆記テスト実施	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	/	演習	テスト結果の振り返りを行うことでこの授業の理解をさらに深める	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ショップ演習 ()	必修 選択	必修(選択必修) 選択等	年次	1	担当教員	大原 暁雄
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期・通年・ 集中等
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	業界への従事を目指す学生を対象とした、業界で働くための幅広い知識を修得する授業。 ・インセクトショップの仕事を学ぶ ・本授業で得た幅広い知識と経験を基に、ショップスタッフや問屋へ就職後も即戦力として活躍できる人材に育ててくれることを望む。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に従事する職場での即戦力となるため、業界に対する基本知識を学ぶ。 ・業界において、問屋業の幅広い基礎知識と技術を習得する。 ・小売業の一部の基礎知識と技術を習得する。 ・小売店での生体管理方法を身につける。 ・オリジナルの器材を作製することで、より深い知識を身につける。 						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	利益率の計算ができる	講義範囲を予習・復習する。
2	/	演習	繁殖について説明できる	講義範囲を予習・復習する。
3	/	演習	海外歴史を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
4	/	演習	国内歴史を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
5	/	演習	病気の症状と対処方を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
6	/	演習	器材の制作を實踐できる	講義範囲を予習・復習する。
7	/	演習	器材の制作を實踐できる	講義範囲を予習・復習する。
8	/	演習	器材の制作を實踐できる	講義範囲を予習・復習する。
9	/	演習	用品メーカーを説明できる	講義範囲を予習・復習する。
10	/	演習	用品メーカーを説明できる	講義範囲を予習・復習する。
11	/	演習	ショップの業務を説明できる	講義範囲を予習・復習する。
12	/	演習	ショップの生体管理の實踐できる	講義範囲を予習・復習する。
13	/	演習	後期で行ったことを説明できる	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	筆記テスト実施	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	/	演習	テスト結果の振り返りを行うことでこの講義の理解をさらに深める	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	動物看護 (Animal Nursing)	必修 選択	必修・ <u>選択必修</u> ・ <u>選択</u> 等	年次	1	担当教員	鈴木 莉紗
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期 水曜日 2・3限
教員の略歴	動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る						
授業の学習内容	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、学んだ知識の実践力を習得する。						
到達目標	健康管理や各検査の目的や意義を理解し、正確に行うことができる。						
評価方法と基準	定期試験 80% 授業内 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義・実習	バイタルチェック、全身チェックを理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
2	/	実習	バイタルチェック、全身チェックを理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
3	/	講義・実習	糞便検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
4	/	実習	糞便検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
5	/	実習	糞便検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
6	/	実習	糞便検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
7	/	実習	糞便検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
8	/	講義・実習	尿検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
9	/	実習	尿検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
10	/	実習	尿検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
11	/	実習	尿検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
12	/	実習	尿検査について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
13	/	講義・実習	調剤について理解し、行うことができる	授業範囲の予習と復習
14	/		試験	今までの演習内容を行う
15	/		振り返り	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 動物看護コアテキスト 動物看護の実践 第2版5				

科目名 (英)	動物看護 (Animal Nursing)	必修 選択	必修・ 選択必修 ・ 選択 等	年次	1	担当教員	鈴木 莉紗
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 等	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期 水曜日 2・3限
教員の略歴	動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る						
授業の学習内容	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎を学ぶ。						
到達目標	これまでに学習した専門知識を活用し、健康維持・適性飼養の啓発と個別に応じたご家族教育・指導を通じて、ヒトと動物のよりよい共生を目指し、事例を用いて説明できるようになる。						
評価方法と基準	定期試験 80% 授業内評価 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	クライアントエデュケーション概論を理解することができる	授業範囲の予習と復習
2	/	講義	家庭で行われる健康管理と医療現場で行われる健康管理を理解することができる	授業範囲の予習と復習
3	/	講義・実習	しつけ・日常の健康チェックについて理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
4	/	講義・実習	人獣共通感染症について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
5	/	講義・実習	狂犬病について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
6	/	講義・実習	犬・猫の混合ワクチンについて理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
7	/	講義・実習	犬系状虫(フィラリア症)について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
8	/	講義・実習	ノミ・マダニ予防について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
9	/	講義・実習	不妊・去勢手術について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
10	/	講義・実習	外来および電話対応方法とクレームの対処方法について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
11	/	講義	院内コミュニケーションの必要性について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
12	/	講義	院内マネジメント、スタッフのメンタルヘルスについて理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
13	/	講義	グリーフケアの方法、展開について理解し、説明することができる	授業範囲の予習と復習
14	/	試験	試験	今までの演習内容を行う
15	/	講義・演習	振り返り	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
動物看護コアテキスト 動物看護の基礎 第2版5				

科目名 (英)	アニマルトレーニング I (Training of Animals)	必修 選択	必修・選択 必修・選択等	年次	1	担当教員	南條 絵美
		授業 形態	講義・演習 実習等	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期 金曜日 1限・2 限
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部						
教員の略歴	JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める						
授業の学習内容	犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。						
到達目標	犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることができる。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	学校犬犬種を理解する	講義範囲を予習・復習する。
2		講義・演習	JKC TOP 5位、褒め、叱りを理解する	講義範囲を予習・復習する。
3		講義・演習	JKC TOP 10位、指示の出し方を理解する	講義範囲を予習・復習する。
4		講義・演習	JKC TOP 15位、権勢症候群を理解する	講義範囲を予習・復習する。
5		講義・演習	JKC TOP 20位、権勢症候群を理解する	講義範囲を予習・復習する。
6		講義・演習	JKC TOP 25位、分離不安を理解する	講義範囲を予習・復習する。
7		講義・演習	JKC TOP 30位、分離不安を理解する	講義範囲を予習・復習する。
8		講義・演習	JKC TOP 35位、ハウストレーニングを理解する	講義範囲を予習・復習する。
9		講義・演習	JKC TOP 40位、トイレトレーニングを理解する	講義範囲を予習・復習する。
10		講義・演習	JKC TOP 45位、遊びの重要性を理解する	講義範囲を予習・復習する。
11		講義・演習	JKC TOP 50位、トレーニングの意義を理解する	講義範囲を予習・復習する。
12		講義・演習	本能を理解する	講義範囲を予習・復習する。
13		講義・演習	本能を理解する	講義範囲を予習・復習する。
14		試験	筆記試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15		講義・演習	筆記試験結果をもとに重要な点を再確認	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集				

科目名 (英)	アニマルトレーニング I (Training of Animals)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	南條 絵美
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習実習等	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める						
授業の学習内容	犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。						
到達目標	犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることができる。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	担当犬の理解 (実際に犬と接することにより、性格を読み取り犬具の装・脱着が出来る)	学校飼育犬及び、担当犬の管理
2		講義・演習	招呼(呼び戻し)を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
3		講義・演習	誘惑がある状況での招呼を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
4		講義・演習	脚側意識の基礎を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
5		講義・演習	脚側行進の基礎を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
6		講義・演習	ハウスを教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
7		講義・演習	伏臥を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
8		講義・演習	脚側意識の応用を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
9		講義・演習	脚側行進の応用を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
10		講義・演習	声符・視符を正しく使うことができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
11		講義・演習	JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する	学校飼育犬及び、担当犬の管理
12		講義・演習	JKC CD-1の規定を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
13		講義・演習	JKC CD-1の規定を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
14		講義・試験	試験 (筆記試験)	学校飼育犬及び、担当犬の管理
15		講義・演習	前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める	学校飼育犬及び、担当犬の管理
準備学習 時間外学習			校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集				

科目名 (英)	クラフトワーク (craft work)	必修 選択	必修・ 選択必修 ・選択等	年次	1	担当教員	渡辺 尋志
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・ 演習 ・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 前期 金曜日 1限・2 限
教員の略歴	1990年より彫刻家として独立、日本美術家連盟会員、新制作協会会員、						
授業の学習内容	生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えることで辻褄の合ったものが出来上がります。絵を描き、粘土や針金で形を作り出す時自分自身の制作物を客観的にとらえ間違いや過不足箇所を的確に訂正できる勇気を養ってほしい。興味があるものだけでなくすべての事柄に対して考えることの重要性を理解して欲しい。また、そこに付随して生態や現在の問題点、それに対しての自分なりの解決策まで考察できる力が付くことを目指したい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・ドライバー、ペンチ、鋸など基本の道具の使い方を覚える。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる 						
評価方法と基準	1)出席率40% 2)作品提出40% 3)作品評価20% ※出席率100パーセント及びすべての作品を期限内までに提出したものは作品評価が低い場合でもA評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の流れとモノ作りについて理解する	自己紹介イラスト制作
2		演習	動物イラスト制作が作れる	描く動物の生態学習
3		演習	動物イラスト制作が作れる	
4		演習	アニマルメモキャッチャー制作が作れる	対象の生き物の形の捉え方
5		演習	アニマルメモキャッチャー制作が作れる	
6		演習	小石の動物が作れる	自然の石の形を利用する
7		演習	小石の動物が作れる	
8		演習	小石の動物が作れる	
9		演習	フェルトの動物が作れる	生き物の特徴と生態
10		演習	フェルトの動物が作れる	
11		演習	フェルトの動物が作れる	
12		演習	フェルトの動物が作れる	
13		演習	解説版のデザインができる	架空の動物施設を設立
14		演習	解説版のデザインができる	架空の動物施設を設立
15		演習	解説版のデザインができる	架空の動物施設を設立
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	クラフトワーク (craft work)	必修 選択	必修・ 選択必修 ・選択等	年次	1	担当教員	渡辺 尋志
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	演習・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	1990年より彫刻家として独立、日本美術家連盟会員、新制作協会会員、						
授業の学習内容	生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えることで辻褄の合ったものが出来上がります。絵を描き、粘土や針金で形を作り出す時自分自身の制作物を客観的にとらえ間違いや過不足箇所を的確に訂正できる勇気を養ってほしい。興味があるものだけでなくすべての事柄に対して考えることの重要性を理解して欲しい。また、そこに付随して生態や現在の問題点、それに対しての自分なりの解決策まで考察できる力が付くことを目指したい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・ドライバー、ペンチ、鋸など基本の道具の使い方を覚える。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる 						
評価方法と基準	1)出席率40% 2)作品提出40% 3)作品評価20% ※出席率100パーセント及びすべての作品を期限内までに提出したものは作品評価が低い場合でもA評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
2		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
3		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
4		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
5		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
6		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
7		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
8		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
9		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
10		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
11		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
12		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
13		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
14		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
15		演習	解説版の制作ができる	架空の動物施設を設立
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名	畜産飼養	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	長嶺 幸介
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・ 実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 月曜日 3限
教員の略歴	1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務						
授業の学習 内容	家畜化の歴史や人との関わりを理解し、適切な飼養管理ができ、適切な扱いを行えるようになるための知識、技術を学ぶ						
到達目標	基本的な知識、技術を習得し、畜産動物の飼養管理に携わる時、適切な管理を行えるようになることを目標とする						
評価方法 と基準	筆記試験80% 授業態度、参加率20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	畜産動物とは何か知ることができる	講義範囲の予習・復習する
2		講義	山羊の家畜化・原種について理解できる	講義範囲の予習・復習する
3		講義	山羊の品種や習性について理解できる	講義範囲の予習・復習する
4		講義	山羊の行動や特性について理解できる	講義範囲の予習・復習する
5		講義	綿羊の家畜化・原種について理解できる	講義範囲の予習・復習する
6		講義	綿羊の品種や習性について理解できる	講義範囲の予習・復習する
7		講義	綿羊の行動や特性について理解できる	講義範囲の予習・復習する
8		講義	山羊と綿羊の病気について理解できる	講義範囲の予習・復習する
9		講義	豚の家畜化・原種について理解できる	講義範囲の予習・復習する
10		講義	豚の品種や習性について理解できる	講義範囲の予習・復習する
11		講義	豚の行動や特性について理解できる	講義範囲の予習・復習する
12		講義	牛の家畜化・原種について理解できる	講義範囲の予習・復習する
13		講義	牛の品種や習性について理解できる	講義範囲の予習・復習する
14		試験	筆記試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す
15		講義	振り返り	試験範囲を振り返り、理解を深める
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
必要に応じて随時参考資料等を使用				

科目名	畜産飼養	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	長嶺 幸介
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・ 実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期 月曜日 3限
教員の略歴	1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務						
授業の学習 内容	家畜化の歴史や人との関わりを理解し、適切な飼養管理ができ、適切な扱いを行えるようになるための知識、技術を学ぶ						
到達目標	基本的な知識、技術を習得し、畜産動物の飼養管理に携わる時、適切な管理を行えるようになることを目標とする						
評価方法 と基準	筆記試験80% 授業態度、参加率20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	馬と人の関わりについて理解できる	馬について自分で持つイメージを一言でまとめる
2		講義	馬の分類・品種などについて理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
3		講義	馬の食性と飼料について理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
4		講義	馬の食性以外の習性について理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
5		講義	感覚器の構造と特徴について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
6		講義	馬体の特徴や、名称、蹄と削蹄・装蹄などについて理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
7		講義	馬の保定方法と必要な道具と使い方を理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
8		講義	ロープワーク技術を身につける	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
9		講義	ロープワーク技術を身につける	前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる
10		講義	飼養する馬の登録について理解できる	前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる
11		講義	馬の個体識別方法について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
12		講義	馬の悪癖について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
13		講義	馬具の名称と使用方法を理解し正しく扱うことができる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
14		試験	筆記試験	前回までの授業のノートとプリント必ず読む
15		講義	乗馬について、形式や騎乗者資格などについて理解できる	前回までの授業のノートとプリント必ず読む
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
教科書はなし 必要に応じて随時参考資料等を使用 馬具や手入れ道具・ロープ・ビデオなどを使用				

科目名 (英)	昆虫ブリーディング	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	1	担当教員	大原 暁雄
	()	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 月曜 2限～4限
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部						
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	インセクトブリーダーを理解し、適切な生体管理・ブリーディングができるために必要な技術・知識を学ぶ						
到達目標	基本的な知識、技術を習得し、インセクトブリーダーとして適切な昆虫の管理・ブリーディングを行えるようになることを目標とする						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	インセクトブリーダーを理解できる。 器材・環境を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	演習	カブト種・管理方法を理解できる。 カブト種の産卵セット方法を理解できる。	演習範囲を予習・復習する。
3	/	演習	クワガタ種・管理方法を理解できる。 クワガタ種の産卵セット方法を理解できる。	演習範囲を予習・復習する。
4	/	演習	ペアリングを理解できる。ペアリングができる。 施設・飼育管理表を理解できる。	演習範囲を予習・復習する。
5	/	演習	ペアリングができる。幼虫の管理方法を理解できる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
6	/	演習	ペアリングができる。用品の管理方法を理解できる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
7	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
8	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
9	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
10	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
11	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
12	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
13	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。 産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	/	演習	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習		学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
飼育管理・ブリーディング器材				

科目名 (英)	昆虫ブリーディング	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	1	担当教員	大原 暁雄
	()	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期 月曜 2限～4限
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部						
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	インセクトブリーダーを理解し、適切な生体管理・ブリーディングができるために必要な技術・知識を学ぶ						
到達目標	基本的な知識、技術を習得し、インセクトブリーダーとして適切な昆虫の管理・ブリーディングを行えるようになることを目標とする						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
3	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
4	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
5	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
6	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
7	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
8	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
9	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
10	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
11	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
12	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
13	/	演習	ペアリングができる。施設・生体・器材管理ができる。産卵セットの割り出しと状況確認ができる。	演習範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	/	演習	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習		学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
飼育管理・ブリーディング器材				

科目名 (英)	昆虫採集 ()	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次		担当教員	大原 暁雄
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	昆虫をブリードしていくためには、上質な生体を仕入れる必要がある。その一つとして昆虫採集がある。昆虫採集するために、各地域に生息する昆虫の種類、様々なトラップを学び実践して行く。 イベントとして昆虫採集を行うための知識・技術を学ぶ。 生息環境を学び、飼育管理に繋げる。						
到達目標	オリジナルのトラップを作製・仕掛けをして、上質の生体確保ができるようになる。また、昆虫採集をイベントとして行える人材になることを到達目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	昆虫採集の目的と必要性を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	演習	各種トラップが理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	演習	各地域での昆虫分類を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
8	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	/	演習	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	昆虫採集	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	1	担当教員	大原 暁雄
	()	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	集中
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部						
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	昆虫をブリードしていくためには、上質な生体を仕入れる必要がある。その一つとして昆虫採集がある。昆虫採集するために、各地域に生息する昆虫の種類、様々なトラップを学び実践して行く。 イベントとして昆虫採集を行うための知識・技術を学ぶ。 生息環境を学び、飼育管理に繋げる。						
到達目標	オリジナルのトラップを作製・仕掛けをして、上質の生体確保ができるようになる。また、昆虫採集をイベントとして行える人材になることを到達目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
8	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	演習	トラップ作成、昆虫採集、同定が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	/	演習	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	標本制作 ()	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	1	担当教員	大原 暁雄
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	生体が亡くなった後も、標本として残すことができる。その標本制作に必要な基礎知識、技術を習得する。						
到達目標	本授業で学んだことを活かし、販売できるほどの標本作成ができることを到達目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	演習	標本の概念と目的を理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	／	演習	標本制作に必要な用品が理解できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
8	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
11	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	／	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	／	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	／	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	標本制作 ()	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次		担当教員	大原 暁雄
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	かぶとむし専門ショップBeetle On オーナー、ショップの経営者としてだけでなく、クワガタ飼育レコードの獲得やイベントの開催、インセクトブリーダーとしても業界の第一線で活躍されている						
授業の学習内容	生体が亡くなった後も、標本として残すことができる。その標本制作に必要な基礎知識、技術を習得する。						
到達目標	本授業で学んだことを活かし、販売できるほどの標本作成ができることを到達目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
8	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	演習	各種昆虫標本作成が実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	公務員試験対策 ()		必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	阿部敏計
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分 曜日・時限	通年・水曜日1 限
教員の略歴	東北大学農学部畜産学科修士課程修了後、仙台市八木山動物公園勤務、2017年3月に副園長で退職							
授業の学習内容	都・公立の動物園飼育員採用試験において、出題が予想される動物全般、生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、環境問題と時事問題に関する記述式解答作成の練習を行う。							
到達目標	都・市立の動物園の飼育員採用試験の記述式専門問題に対応できるようにする。							
評価方法と基準	定期試験60点以上 出席率66.7%以上							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	公立動物園飼育員試験概要の説明 哺乳類全般PartⅠ	講義範囲を復習する
2	/	講義	肉食類、ウサギ類、哺乳類、鳥類PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
3	/	講義	鳥類PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
4	/	講義	鳥類PartⅡと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
5	/	講義	両生類、爬虫類PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
6	/	講義	飼料、輸送PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
7	/	講義	分類、学名、展示PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
8	/	講義	トレーニング、エンリッチメントPartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
9	/	講義	感染症、寄生虫PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
10	/	講義	病気関係PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
11	/	講義	捕獲、保定PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
12	/	講義	その他PartⅠと生物、畜産、公衆衛生、動物関係法律、時事問題	講義範囲を復習する
13	/	講義	総復習	講義範囲を復習する
14	/	試験	評価試験	
15	/	講義	評価試験返却・解説・振り返り	試験範囲を振り返り、理解を深める
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 新改訂版 飼育ハンドブック 動物園編 1～5 (日本動物園水族館協会刊行)等				

科目名 (英)	公務員対策 ()	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	阿部敏計
学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年・水曜日1限
教員の略歴	東北大学農学部畜産学科修士課程修了後、仙台市八木山動物公園勤務、2017年3月に副園長で退職						
授業の学習内容	基礎学力の向上を目的とし、基本的な解き方を示すことで基礎的な知識を身につけ、代表的な問題を解くことで理解を深めます						
到達目標	頻出問題の基礎的な解き方を確実にマスターする						
評価方法と基準	授業内評価 30% 定期試験 70%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	演習	濃度算①溶液全体の中に混ざっているものの割合を求めることができるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
2	/	演習	濃度算②異なる濃度の食塩水を方程式で求めることができるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
3	/	演習	速さ・距離・時間①距離が一定の問題を公式を使ってきまった「距離」での関係を表すことができるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
4	/	演習	速さ・距離・時間②通過に関する問題を公式を使って、きまった「距離」での関係を表すことができるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
5	/	演習	速さ・距離・時間③進む向きに関する問題を公式を使ってきまった「距離」での関係を表すことができる		当該授業内容の復習と公式を理解する
6	/	演習	モノの値段と個数、定価・原価・利益①ものの値段に関する仕組みを使った問題を解けるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
7	/	演習	定価・原価・利益②、割合と値段 割合で金銭をとらえて考える問題を解けるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
8	/	演習	仕事算、表の読み取り 全体の仕事量や1人当たりの仕事量に関する問題が解けるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
9	/	演習	順列・組合せ 並べ方や組み合わせに関する問題が解けるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
10	/	演習	図表の読み取り①%の計算を活用して問題が解けるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
11	/	演習	図表の読み取り②%の計算を活用して問題が解けるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
12	/	演習	確率 ある事柄の起こる場合の「確率」を求めることができるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
13	/	演習	集合 ベン図を使って集合の要素の個数を求めることができるようになる		当該授業内容の復習と公式を理解する
14	/	定期試験			
15	/	解説			
準備学習 時間外学習			必ず、復習を行うことで公式を覚えるのみならず、考え方を整理し理解する		
【使用教科書・教材・参考書】 プリント配布					

科目名 (英)	動物行動学 (Scisence of Animal Behaviour)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大竹静枝
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	山形大学大学院理学研究科修士課程修了、宮城県の野生ニホンザル、南米の新世界ザルの生態調査と、宮城教育大学はじめ専門学校の講師歴は30年						
授業の学習内容	1)毎回の講義で1種の動物を取り上げ、写真、映像から形と行動の特徴を見つける 2)それを各自テーマに沿って、レポートにまとめ、出来映えを競う。						
到達目標	1)動物観察の視点と、科学的発想を身につける。 2)専門用語を覚え、わかりやすい表現法を習得する。						
評価方法と基準	ルーブリック評価を採用 1)レポート40% ,2)授業態度30%, 3)出席数30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	1年講義オリエンテーション	
2		講義	収斂進化によるジャングルの成功者を知る	連休課題
3		講義	哺乳類の熱効率を学ぶ	前回の復習
4		講義	哺乳類の寒冷地適応を学ぶ	前回の復習
5		演習	動物園観察会	
6		演習	動物園観察会予備日	
7		講義	毛の機能と構造を覚える	前回の復習
8		講義	授乳による繁殖の秘密を解き明かす	前回の復習
9		講義	爬虫類の生き残り戦略を考える	前回の復習
10		講義	動物園に学べ—プレゼンの基礎	前回の復習
11		講義	動物園に学べ—行動観察の手法	夏休み課題
12		講義	アニマル・トーク—行で惹きつける	発表原稿の作成
13		講義	アニマル・トーク—数値と用語の選び方	発表原稿の作成
14		演習	課題のまとめ	
15		演習	課題のまとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 講義時は毎回、映像と資料を使用し、レポートを提出。そのため、映像デッキと、資料のコピーが必要				

科目名 (英)	動物行動学 (Science of Animal Behaviour)		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大竹静枝
	学科・コース	動物海洋ECO学科昼間 I 部	授業 形態	講義・実習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期 金曜日2時限
教員の略歴	山形大学大学院理学研究科修士課程修了、宮城県の野生ニホンザル、南米の新世界ザルの生態調査と、宮城教育大学はじめ専門学校の講師歴は30年							
授業の学習内容	1)脊椎動物が水中から陸上、空中までいかに適応放散したかを学ぶ。 2)2年で実施する動物園観察会の発表動物を選び、資料作成とテーマ決定をする。							
到達目標	1)動物が本来備えた適応力を理解し、それを正しく表現する力をつける。 2)各回まとめたレポートを精査し、各自発表を行い、口頭発表のコツをつかむ。							
評価方法と基準	ルーブリック評価を採用 1)レポート40% ,2)授業態度30%, 3)出席数30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	脊椎動物の進化を学ぶ	
2		講義	恐竜がもたらした恩恵を理解する	前回の復習
3		講義	何故ペンギンの体温が変化するのか、考える	前回の復習
4		講義	へそのない哺乳類の謎を解く	前回の復習
5		講義	へそはあるが、袋で育てる哺乳類を紐解く	前回の復習
6		講義	子育てする爬虫類を考える	前回の復習
7		演習	水中に進出した哺乳類を知る	前回の復習
8		講義	土中に進出した哺乳類を知る	前回の復習
9		講義	巨大化した哺乳類の袋小路を見る	前回の復習
10		講義	生態系の頂点、肉食獣の収支を知る	前回の復習
11		講義	観察会の視点を発表する	レポート提出
12		講義	口頭発表の原則	口頭発表の練習
13		講義	テキスト下書きの確認	下書き完成
14		演習	総まとめ	
15		演習	総まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 講義時は毎回、映像と資料を使用し、レポートを提出。そのため、映像デッキと、資料のコピーが必要				